

質問日	令和4年9月30日(金)		質問方式	分割方式			
質問順位	6	会派名	市民クラブ	議席番号	23	氏名	鈴木 真人
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 流域治水対策について	<p>気候変動による降雨量の増加などを考慮した治水計画の見直し方針として、国が流域治水の考え方を示したことを受けて、天竜川水系をはじめ、都田川水系、馬込川水系においても、国・県・市でつくる流域治水プロジェクトが策定、公表された。この中では、国が示した①氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進め、流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行うとある。そのため河川・道路を管轄する土木部局だけでなく、関係する他部局へも協力が求められている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 天竜川の堤防で、除草に併せて河川点検を実施する旨の看板が設置されており、頻繁に点検や除草を実施している印象を受けた。河川堤防は流域治水の要であり、適切な維持管理が重要と考えるが、市や県による河川点検や除草など維持管理の実施状況と課題について伺う。</p> <p>(2) 豪雨時の水災害を軽減する新たな貯留施設の設置について伺う。</p> <p>(3) 流域治水における田んぼダムの取組と農業用水路の活用について伺う。</p> <p>(4) 今年度、補助金により支援している冠水エリアのモニタリングに関する取組について伺う。</p> <p>(5) 被害対象を減少させるため、防災都市づくりに向けた計画立ての中で、水災害リスクを考慮した土地利用規制や誘導などの検討が必要と考えるが、市の考えを伺う。</p> <p>(6) 水災害等に対するBCP(事業継続計画)の策定支援と被災に遭った企業への支援について伺う。</p>						<p>伏木土木部長</p> <p>〃</p> <p>清水農林水産担当部長</p> <p>内藤デジタル・スマートシティ推進部長</p> <p>井熊都市整備部長</p> <p>藤野産業部長</p>
2 家庭ごみ減量の推進に向けて	<p>昨年10月の浜松市環境審議会の答申を受け、家庭ごみ有料化の検討が進められ、現在その素案についての意見募集が行われている。家庭ごみへの関心が高まっていることから、ごみ分別や家庭ごみ減量を促す機会と捉え、有料化の前に、まずは市民が家庭ごみ減量に積極的に協力できる仕組みや減量化への動機づけが必要と考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) ごみ分別に馴染みがない市民に対して訴求力のある情報伝達のために、スマホを活用した広報施策について伺う。</p>						藤田環境部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>(2) 性質を表す「もえるごみ（可燃）」や処理工程が分かりにくい「もえないごみ（不燃）」から、処理工程を表す「燃やすごみ」・「埋立ごみ」への名称変更など、分別の動機づけとなるごみの処理方法を分かりやすく伝える工夫をする方策が必要と考えるがどうか伺う。</p> <p>(3) 雑紙は、地域団体や民間事業者が回収しているが、例えば土日の集積所を活用するなどさらに雑紙を出しやすい仕組みが必要と考えるがどうか伺う。</p> <p>(4) 生ごみ減量のため、他の市町が実施している乾燥生ごみを特典と引き換えることができる制度など、新たな生ごみ減量のための施策の方向性について伺う。また、現在、市内でバイオマス施設の計画が進んでいるが、将来における家庭から出る生ごみ処理への活用について伺う。</p>	
<p>3 インクルーシブな遊び場の普及について</p>	<p>西中瀬中央公園にインクルーシブ遊具が設置され、10月5日のオープンに向けて障がい児の保護者から期待する声が寄せられている。東京都では、都立公園において遊具のある子ども広場の整備または再整備する際は、すべて「インクルーシブな遊び場」にするとの取組が始まっている。インクルーシブ公園で、違いがある子が混じって遊ぶことで、違いを自然と理解し一緒に遊び育つ方法を身につけられることでインクルーシブ社会をつくる能力と心が育つと言われている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 西中瀬中央公園のインクルーシブ遊具導入に当たっての関係者の理解や期待について伺う。</p> <p>(2) 本市においても公園の整備または再整備する際に、インクルーシブな遊び場を積極的に普及させていくべきと考えるがどうか伺う。また、公園計画時の検討項目にインクルーシブな遊び場を加えることについてはどうか伺う。</p>	<p>奥井花みどり 担当部長</p>
<p>4 教職員の魅力ある職場づくりについて</p>	<p>教育の質の向上のために教職員の働き方改革が進められているが、さらに魅力ある職場づくりに向けて、以下伺う。</p> <p>(1) 各学校での優れた取組を共有し、現場の実情を踏まえた働き方や健康管理に関する情報を教職員に提言していくことを目的の一つとした統括安全衛生委員会を設置したが、その現状と成果、今後の取組について伺う。</p> <p>(2) 学校内外の様々な問題に対しては、初期からの適正対応が肝要であり、他都市では中立的な立場から学校が取るべき法律上適切な対応を助言・指導するスクールロイヤーを導入している事例がある。本市においても法的相談体制を充実させていく必要があると考えるが、今後体制をどのようにしていくのか考えを伺う。</p>	<p>田中学校教育部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>5 主要地方道浜松環状線の整備について</p>	<p>主要地方道浜松環状線は、本市の交通・物流のみでなく、磐田市・袋井市まで含めた経済圏の物流を担う重要な道路であると考えられる。加えて、災害時の物流の動線として重要な役割を担うとされている。</p> <p>一方で、未整備区間の現状は、路肩はあるが歩道がない状況であり、歩行者の安全確保が急がれている。また、治水上も地域の関心が高い安間川に架かる万斛橋の架け替えに対する地元要望が多い。</p> <p>そこで、浜松環状線の整備状況と、万斛橋の架け替えについて今後の取組を伺う。</p>	<p>伏木土木部長</p>
<p>6 子宮頸がんの予防について</p>	<p>国はHPVワクチン接種の積極的勧奨差し控えを終了し、本年4月より対象者への個別勧奨を再開した。しかしながら、HPVワクチンは特定のウイルスにしか効果がないため、接種の有無にかかわらず、子宮頸がんの早期発見、早期治療のためには定期的な子宮頸がん検診の受診が必要とされている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 個別勧奨が再開となったが、HPVワクチン自体は変わっていないため、接種に当たりワクチンの効果や接種リスクを含めて丁寧な説明と接種ごとの体調フォローが極めて重要であると考えるが、現状の対応について伺う。</p> <p>(2) 多忙な人や医療機関での検診に抵抗を感じる人もいるため、子宮頸がん検診の受診率向上のため、WHO（世界保健機関）も推奨し、既に通販での購入が可能な、自宅で使える子宮頸がん郵送検査キットの活用について伺う。</p> <p>(3) 子宮頸がん検診に限らず女性特有の疾患や体の変化について気軽に相談できるように、かかりつけの婦人科の取組を行っている市町がある。そこで、本市における相談しやすい体制の取組について伺う。</p>	<p>鈴木医療担当部長</p>